

## 乾側をよくする会

### 1 基本データ

- 地区名 乾側地区
- 地区人口 956人 (H29.1.1現在)
- 世帯数 340世帯
- 面積 約5.8km<sup>2</sup>
- 地区の沿革

乾側地区は、市街地の北西部に位置し、地区西端にある花山峠を境に福井市に接し、地区中央の東西を国道158号線が横断しており、大野市の西の玄関口となっている。

8地区からなり戸数約230戸で、酒米と種籾産地として有名な純農村地域である。

- 実施主体 乾側をよくする会

### 2 現状と課題

乾側地区は縄文時代から人々が住み始め、大野でも最初に開けた場所のひとつである。弥生時代や古墳時代には牛ヶ原を中心に大きな力を持った豪族が現れ、乾側地区内に多くの墓や古墳が作られた。中でも牛ヶ原の山ヶ鼻古墳群には奥越で唯一の前方後円墳があり、鉄剣や貨幣(和同開珎)も見つかっている。なお、大野盆地内の古墳のうち6割以上が乾側地区に集中している。

また、稲作が始まり、奈良時代には寺や貴族・豪族の土地である荘園が発達したが、牛ヶ原の荘園は、奈良時代には奈良東大寺領、平安時代には京都醍醐寺領として、今の大野市街地の北半分にまで広がっていた。その牛原荘には後に牛ヶ原城が築かれ、三社神社が建立された。なお、尾永見区には、稲作に縁の深い雨乞い踊りが無形民俗文化財として継承されている。

さらに、南北朝時代に築かれた戌山城は、金森長近によって越前大野城が築かれるまで、戦国時代の激動期を含め200年余りの間、大野とその周辺地域を治める斯波氏、朝倉氏の居城

として、県内2番目の多さの畝堀数と奥越最大の規模を誇る山城であり、一乗谷城の東方面の軍事拠点として重要な役割を果たしていた。

このように、乾側地区は古来、大野盆地の中でも最も歴史と伝統のある地域であり、その価値と魅力を高めるために、平成22年度から3カ年をかけて「みくら清水・戌山城址」及び「牛ヶ原城址・三社神社」の2コースの登山道整備を、平成25年度では、城址登山道の案内看板及び主郭付近へ木製ベンチを設置するなど、史跡整備に取り組むと同時に乾側の歴史について、多くの方に関心を深めて貰うためにマンガ調本の分かりやすい「乾側歴史ものがたり」を発刊した。平成26年度には、これまでに整備してきた史跡を、乾側への来訪者に分かりやすく見て貰い、現地の史跡に足を運んで貰えるように「歴史ロマンの郷 乾側」と題した乾側史跡総合案内看板を制作し、JR牛ヶ原駅前に設置。また平成28年度には、これまでに整備してきた史跡を始めとする乾側のたくさんの魅力をもっと分かりやすく紹介して、一人でも多くの方に乾側へ足を運んで貰えるようにと乾側の魅力を紹介するホームページとパンフレット「乾側のトリセツ」を制作した。

「住み続けたい、訪れたい、住んでみたい」と思えるような魅力ある地域づくりを行うには、今後、更なる地域資源の洗い直しや掘り起こしを行い、これまでに整備してきた史跡・伝統等を始めとする乾側のたくさんの魅力を情報発信・継続発展させていくことに併せて、加速する地域の人口減少問題に対して、いかに取り組んでいくかが最重要課題となってくる。

### 3 事業の内容

(1) 普及啓発・伝承事業

①乾側史跡巡りウォーク

日時 平成28年10月15日(土)

午前9時～正午

参加者 約20人

乾側の歴史や魅力への理解を深めて貰うと同時に健康と交流を目的とした「乾側史跡巡りウォーク」を地区住民を始め市内全域を対象に企画した。

乾側公民館に集合した参加者は、三社神社→牛ヶ原城址主郭→坂門一言神社→寶光寺の順に、途中、史跡ごとに市の学芸員から説明を受けながら、約3時間かけて散策した。



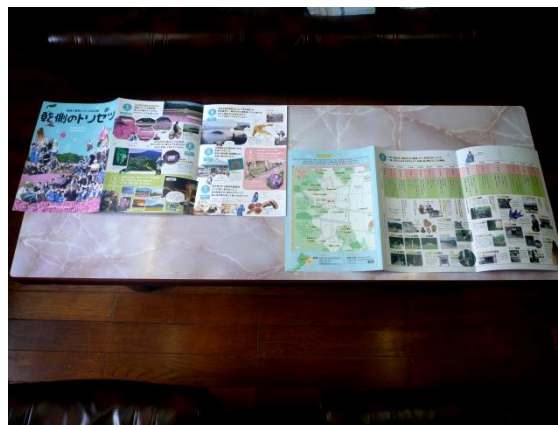
尾永見の三社神社へ向けて登山中

## ②ホームページ及びパンフレットの制作

史跡をはじめとする乾側のたくさんの魅力をもっと分かりやすく紹介して見てもらい、一人でも多くの方に乾側へ足を運んでももらえるように、昨年度に制作した乾側魅力紹介ホームページとパンフレットを一部修正し、増刷・配布した。



乾側魅力紹介ホームページを一部修正



乾側魅力紹介パンフレットの増刷

## ③お参り椅子の購入

各種団体連絡協議会による地域づくり講演会や学習会において、高齢者もたくさん参加できるように、膝や脚への負担を軽減することができるお参り椅子を購入した。



お参り椅子の購入（15脚）

## （2）登山道・史跡整備事業

### 三社神社・牛ヶ原城址登山道の補修作業

三社神社・牛ヶ原城址の登山道については、過去に登山者が登りやすいように整備を行ったが、経年劣化により、登山道があらこちらで損傷しているため、乾側をよくする会員を中心に補修作業を行った。

なお、登山道の補修作業については、戌山城址と三社神社・牛ヶ原城址を毎年、交互に継続して取り組んでいる。



**三社神社・牛ヶ原城址登山道の補修作業**

### (3) 観光促進事業

#### 乾側ちよい乗りレンタサイクル

乾側地区及びその一部周辺では、春はかたくりやシバザクラ、初夏にははたる鑑賞会、秋には戌山城址からの「天空の城 越前大野城」が楽しめるので、来訪者がもっとたくさんいろんなスポットに足を運べるよう、レンタサイクルとしてJR牛ヶ原駅駐輪場内に無料貸し出しの自転車を配備するとともに案内看板を設置した。

なお、配備した自転車4台は、地域住民からの提供で、明るく目立つように乾側をよくする会員により、黄色のペンキを塗って配備したものである。※安全管理の問題により、市内の自転車屋さんに安全点検を依頼し、不良個所の修理を実施



**案内看板と自転車を配備**

### (4) 地域活力事業

地域づくりは、そこに住む地域住民が自分た

ちの地域を楽しみと思えるか、住んでいて良かったと思えることが根本となる。そこで、地域を楽しく元気に活気づけようと、12年ぶりに夏まつりを復活。当日は、予想を超える多くの地域住民が会場の乾側公民館に足を運び、盛大な賑わいを見せた。



**たくさんの地域の方で会場は大いに賑わった**

## 4 事業の成果

本年度は、これまで取り組んできた事業を維持、更新、そして継続すると同時に、新たに乾側の特色を活かした地域活力事業として、12年ぶりに夏まつりを復活して企画運営に取り組んだ。

まず、普及啓発・伝承事業として開催した「乾側史跡巡りウォーク」では、地区の住民や児童の他に地区外住民の参加もあり、ふるさと意識の向上と地域の魅力を発信するとともに市学芸員による史跡等の説明により、一層史跡に対する理解を深めることができた。また、昨年度に制作した史跡を始めとするたくさんの乾側の魅力を紹介するホームページとパンフレットについて、ホームページでは毎年変化する地域情報の内容を一部修正するとともに乾側の情報をリアルタイムにアップするなどの情報発信を、またパンフレットについては、人が多く集まる観光拠点施設などへ定期的な配布を実施した。

次に、登山道・史跡整備事業について、三社神社・牛ヶ原城址は戌山城址よりも歴史が古く、当地域では戌山城址と同じくらい重要な史跡で

ある。その登山道が経年による損傷が目立ち危険なため、乾側をよくする会員を中心に補修作業を実施した。登山補修作業を地域住民自らが汗を流して取り組むことは「地域力」の強化が図られると同時に登山道を登りやすく補修整備したことで三社神社・牛ヶ原城址への更なる観光客の呼び込みに繋げることができた。

次に観光促進事業については、乾側を訪れた観光客が地域内やその周辺をもっと自由にゆつくりと散策できるように無料のレンタサイクルをJR牛ヶ原駅駐輪場内に配備した。配備した時期が年度末3月だったため、成果についてはこれからの検証となるが、4月からのかたくり、5月のシバザクラ、初夏のほたる鑑賞、秋にかけての戌山城址からの「天空の城 越前大野城」など、レンタサイクルの利用による一層の観光振興が図られることを期待したい。

最後に地域活力事業については、12年ぶりの復活となる「第1回いぬいかわ夏まつり」を企画運営した。乾側に夏まつりをという機運が年々少しずつ高まる中で、本年度の復活にいたり、まつり当日は、予想を超える住民が会場の乾側公民館に集まって、会場は大いに盛り上がった。

自分たちの住む地域の魅力を掘り起し、見直し、磨きを掛け、それらをホームページなどでリアルタイムに情報発信して来訪者の増加に繋げると同時にレンタサイクルサービスといった来訪者への細かなサービスなどの観光促進にも取り組み、また12年ぶりの復活となる夏の楽しみを企画運営して大いに盛り上げるなど、地域住民による地域住民のための活動が地域づくりへと繋がることは言うまでもなく、それがひいては「住み続けたい、訪れたい、住んでみたい」という人口減少対策の成果となって表れていくことを大いに期待したい。

## 5 今後の展望

乾側にまだまだあるであろう魅力を掘り起し、見直し、そして磨きを掛けると同時にこれまでに手掛けてきた事業の維持、更新、継続を今後行う。特に、制作したホームページを有効に活用して、一人でも多くの方に乾側を訪れて貰えるように日々リアルタイムに乾側の情報や魅力を発信していく。

また、観光促進に向けた取り組みと併せて、本年度に復活・開催した夏まつりの更なる充実を図るなどの地域に活力と活気が出るような取り組みを進めていく。

地域住民自らが自分たちの地域に、誇りや幸せや楽しみを感じられることが人口減少問題への大きな解決策となる。先述の(1)～(4)の事業を地道に継続して、かつ見直しながら工夫して取り組んでいくことで、人口減少対策に繋げていきたい。